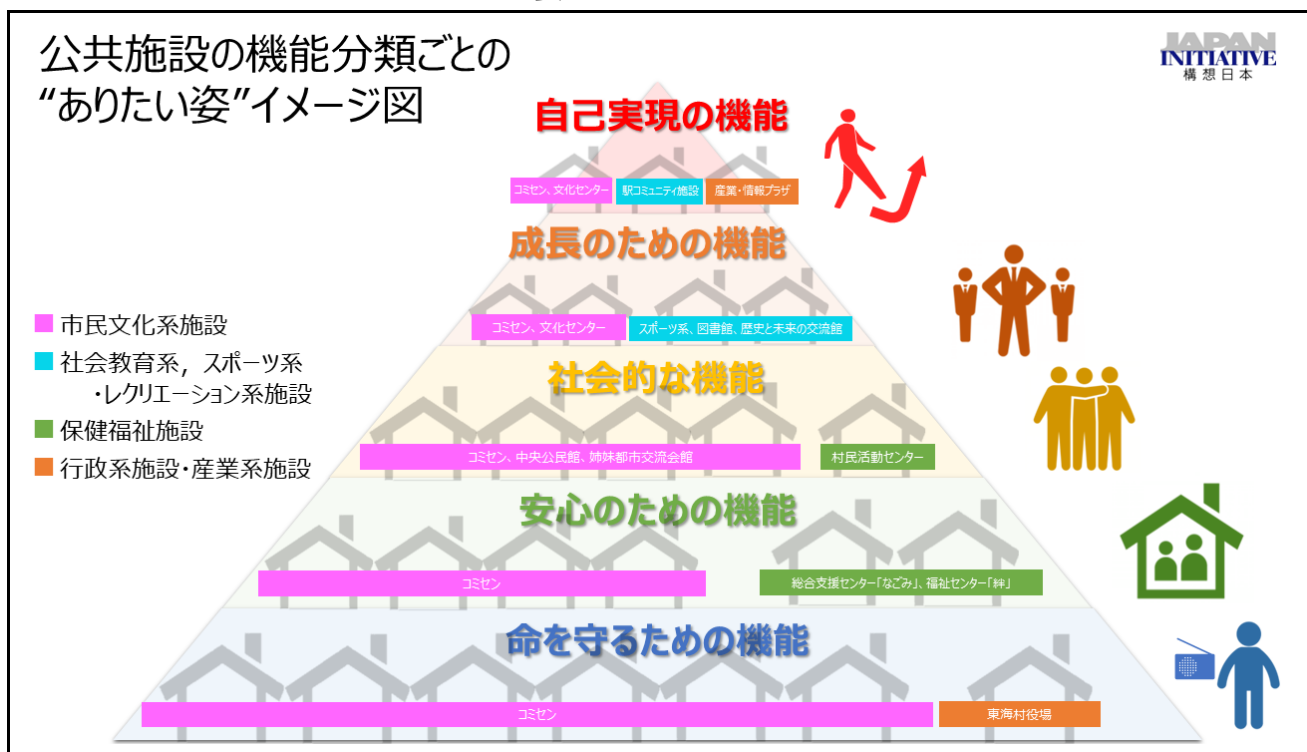


東海村“自分ごと化会議”～公共施設の在り方を考える～ 施設レビュー，第1回自分ごと化会議意見のまとめ

“公共施設のありたい姿”の考え方(“ありたい姿”の全体像)

1. “ありたい姿”を考えるための前提
2. 公共施設全体に関する“ありたい姿”
3. 公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”



4. その他施設区分ごとに出された改善提案意見

目次

1.“ありたい姿”を考えるための前提	3
(1) バックキャストिंगで考えました	3
(2) 時間軸はこう考えました	3
(3) 現状把握と分析が必要です	4
2.公共施設全体に関する“ありたい姿”	5
(1) 村全体, エリア, 施設の各ビジョンがつながってほしい.....	5
(2) 公共施設の真の価値, 目的を大切にしてほしい.....	5
(3)施設設間の連携や施設内の機能が連携してほしい.....	5
(4) 皆に知られる公共施設であってほしい	6
(5) アクセスしやすい公共施設であってほしい	6
(6) すべての人に優しい公共施設であってほしい	7
(7) すべての人が利用しやすい手続きであってほしい	7
3.公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”	8
(1) 命を守るための機能	8
(2) 安心のための機能	9
(3) 社会的な機能	10
(4) 成長のための機能	11
(5) 自己実現のための機能	12
4.その他施設区分ごとに出された改善提案意見	13

～資料の読み方～

- 第2回は**公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”(目次の赤い網掛け部分)**を中心に対話していきます！
- 今までは**「施設区分ごと」**に対話していましたが、第2回は**「機能分類ごと」**に対話していきます



- 各項の構成は、タイトル>リード文>主な意見※(3のみ有効活用視点及び収益性視点ごとに整理)
- 「確認ポイント！」は、今までの話し合いの確認です
- 「対話ポイント！」は、第2回で主に対話する部分です。**次回までに“ここ”を少し考えてみて下さい！**
- 表紙の公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”イメージ図は、心理学者であるマズローの「欲求の5段階説」をベースに、これまでの対話で見えてきた各施設の特性を**「機能分類ごと」**に落とし込んだ図になります。

1. “ありたい姿”を考えるための前提

(1) バックキャストिंगで考えました。←確認ポイント！：今までの話し合いの確認です

- 未来の“ありたい姿”を話し合い、共感を得ることで、村の方向性になる。
- 計画などに盛り込む手法は行政側の宿題として、村政全体の課題を見極めながら考えていく。
- 最初に目標とする“ありたい姿”を描いて、そこから、それを実現するための道筋を未来から現在へさかのぼって考える、バックキャストिंगで対話する。

<主な意見>

- 行政は計画を作ってそれを遂行するために推進しているのだけれど、どうしても、数字ありきになってしまう。でも本当は、村民の皆さんに使ってもらうためには、どうしたらよいか、どんな方向が良いのか、こういう施設はぜひ残しておきたいねと、そういう思いをちゃんと皆さんで話し合っ、皆さんも共感してもらえれば、それが一つの方向性になると思っている。
- そして、それをどういう手法でやるかは、役所が宿題としてもらっているということ。ここでは、ありたい姿を議論していただく方が良いと思う。
- 公共施設総合管理計画の70年とか25%削減というのは、村政全般としては全体の分野も見極めながら考えていくが、今回の自分ごと化会議では、そこに縛られる必要はない。
- 「あるべき論」というべき論ではなく、「ありたい姿」という視点を大切にしてほしい。をまず考えてほしい。

(2) 時間軸はこう考えました。←確認ポイント！：今までの話し合いの確認です

- 時間的な要素にとらわれず、まずはスタート地点から未来を展望するための大きな方向性として“ありたい姿”を考えることが長期的には重要である。
- そして、今後大きく変わるであろう社会状況に柔軟に対応するためにも、具体的な計画は流動的に変化するという現実的な考え方も必要である。

<主な意見>

- かなり先のビジョンを今考えると言うが、そもそも村全体のビジョンとは何か。
- おそらく今から30年後は、状況が大きく変わっていると思う。ただそうは言っても、方向性、こういうふうになりたいよねという方向性は、こういうところを考えていくのが必要かと思う。
- ビジョンは、これから大きく変わる社会状況に対応できるように柔軟性や流動性があっても良いと思う。
- 住んでいる地域などに縛られず、自由に、そして全体的な視点で良くなれば良いと思う。
- “ありたい姿”という意味でのビジョンについては、年数に縛られる必要はないかなというようなイメージを持っている。今回の話し合いは、まず第1弾だというような感覚、今日がスタート地点であるというふうになっている。
- 方向性という議論であれば、私は、まさに、そこが大事なのかなというふうに思います。年数に縛られず、長期的に考えて見て、次のステップでは、“ありたい姿”の具体的な話をしていく、そして、いずれありたい姿に向かうその目標設定だとかって話になっていく可能性もあると思う。なので、長期的に考え、それが5年後に変わるというでも構わないと思う。

(3) 現状把握と分析が必要です。←確認ポイント！：今までの話し合いの確認です

- “ありたい姿”を考える大前提として、現状を把握し、それをしっかり分析することが必要である。
- 利用に関するデータでは、利用率や延べ人数に加えて、実人数や世代ごとのデータなども必要である。
- また、利用者の声などから潜在的なニーズ、真にその施設を必要としている人の情報も必要。

<主な意見>

- 現状の把握と分析が必要だろう。延べ人数や割合ではなく、実人数の把握などが必要。
- 稼働率でいえば施設全体の稼働率に加えて、それぞれのセンターの活動状況も必要。
- 潜在的なニーズ、本当に必要としている人をまず把握するところから始めるべき。
- 利用者の声などはどのようなものがあるのか？
- 小学世代の利用頻度はどうなっているのか？ 世代ごとの利用率なども必要。

2. 公共施設全体に関する“ありたい姿”

(1) 村全体、エリア、施設の各ビジョンが繋がってほしい。←確認ポイント！：今までの話し合いの確認です

- 個々の公共施設を考えるためには、村全体のまちづくりビジョンを基に考えることが大切である。
- 個別施設の部分最適よりも村全体の全体最適という視点が必要である。
- 施設が立地するエリアの価値を活かすためにはそのエリアのビジョンや開発デザインにも注目する必要がある。
- 全体ビジョンには東海村ならではの、というストーリーも大切である。

<主な意見>

- 全体としてのビジョン(ありたい姿)を明確にし、そこからバックキャストिंग、施設の役割を再定義し、今やるべきことをより効果的な手段を考えていきたい
- 率直な意見を出し合うことで、ビジョンに繋がるのではないか。
- 自治体で公共施設を運営するのであれば、東海村として何を持ってやるのかを明確にすべきではないか。
- 建物ごとではなく、文教エリアとしてより多くの住民が集まれるような開発デザインが重要ではないか。また回遊性も重要で、子どもも利用するので交通安全面にも気を使ってほしい。
- 公共施設全体として、縦割りで考えず、横の連携を考えて、回遊性等を設計できると良いのではないか。
- 緑を大切にしてほしい”東海村の魅力ある豊かな自然を無計画に壊さないで！

(2) 公共施設の真の価値、目的を大切にしてほしい。←確認ポイント！：今までの話し合いの確認です

- 公共施設は目的ではなく手段である。そもそもの目的を達成するという視点が肝要である。
- 必要なところに必要なものを届けることに、公共施設の真の価値があり、そこをしっかりと考えなければならない。

<主な意見>

- 公共施設は村全体のビジョンを遂行するための手段であるため、目的を明確にして、目標を達成するためのロードマップや施設管理計画をしっかりと定め、PDCA していくことが継続的な施設の繁栄、村の繁栄に繋がっていくのではないか。
- 公共施設の箱物としての方向性は民間に任せる部分も検討し、小さな政府にする方法もあるが、規模を縮小させても、住んでいる人が満足することが重要ではないか。
- 人が集まってきて、活気のある場所になれば良いのではないか。
- 本来果たしている機能と単なる箱としての施設を一緒にしてはならない。大切なのは、本質的な必要なところに必要なものを届けるということが真の価値である。

(3) 施設間の連携や施設内の機能が連携してほしい。←確認ポイント！：今までの話し合いの確認です。

- 施設の魅力アップを考えるためには、施設単体でその魅力を追求するだけでなく、他の施設との連携による新たな魅力創造にも注意を払うべきである。
- そのためにも、施設間や組織間の壁をなくし、組織間連携を図ることが必要である。
- 複合施設においては、施設内の各機能が連携することで、施設価値が高まると考えられる。

<主な意見>

- 組織(部や財団、委託先なども含めて)ごとでなく全体最適の視点で、金額や計画の積み上げでなく内容の平準化や合理化を考えるべき
- 保健福祉施設等のハードとソフトを含め、それぞれの施設がどういった役割を担い、公共施設全体の中での位置づけられているのかを考えるべきではないか。

- 図書館はイベントとともに、コミュニティセンターの活用や学校との連携、移動図書館などの工夫があるとさらに活発な事業になるのではないか。

(4) 皆に知られる公共施設であってほしい。←確認ポイント！：今までの話し合いの確認です

- 情報を必要としている人に伝えることは重要であり、周知方法に関しては行政からの一方的な情報発信だけではなく、SNS や口コミなど住民同士の発信も大切である。
- 周知が行き届いておらず、公共施設だと認識されていないものもある。
- 施設によっては固定概念によって利用をためらっている住民もいるので、気軽に利用できること工夫をした上で、周知していくことも重要ではないか。

<主な意見>

- SNS 時代では拡散力が重要であるため、村も公式 LINE や Twitter などを利用するのはどうか。
- 情報の拡散に関して、もう 1 人先の人に届けるためにはどうしたらいいかを考えると良いのでは。
- それぞれの企画の特性ごとにターゲットを分けて情報発信を考えているか。
- 実際に見た人(身近なところ)の発信が、一番信用できる情報である。
- 事前に使いやすさを周知することで、安心して来場できるような案内ができるのでは。
- イベントの告知をリマインドできるような情報媒体があると良いのでは。
- 未利用の施設は入りにくいので、体験学習のようなものがあれば利用する人が増えるのでは。
- アイヴィルは今回初めて名称を知り、使える場所だと知った。社協の役割を知らない
- アイヴィルの外観に見える形で名称を提示し、施設の役割を周知すると利用者がアップするのでは。特に、創業支援、観光協会の事業については、情報発信の手法を工夫すべき。
- 保健福祉施設において、身体に支障がある方しか利用できないイメージがあるので、健康な人(未病や健康増進の取り組み)でも気軽に活用できるといった情報発信ができると良いのではないか。そのためには、施設や事業を周知し、知ってもらった上で来場してもらうことが重要であり、例えば、健康体操を「絆」でやっているの、それを聞いて「今度行ってみよう」と思う人が増加すれば良い。

(5) アクセスしやすい公共施設であってほしい。←確認ポイント！：今までの話し合いの確認です

- 使ってもらうためには公共施設までのアクセスを便利にすることが必要である。公共施設までの移動手段をしっかりと考えること、駐車場などを整えることが必要である。

<主な意見>

- 社会福祉施設の集約ができないのであれば、利用者やスタッフの利便性向上のために、循環バスを運行するなど、交通手段を改善することが必要。
- 小さなバスとかをオンデマンド配車サービスあるんだと思うので定期的に循環するような施設を結ぶ交通、システムがそんなにあるとすごくいい。
- 循環バスだとか、あるいは福祉施設同士を結ぶいろいろな方法、スタッフだとかの行き来するそういう交通手段も考えていく必要がある。
- 高齢者は自分で運転されない方のため、バスとかあったら行きやすいと思う。
- 体育館横の駐車場の入り口が分かりにくい。
- 使う人が来やすい開設の曜日や時間を考えるべき。
- 駐車場不足の施設はその解消対策を考えてほしい。

(6) すべての人に優しい公共施設であってほしい。 ←確認ポイント：今までの話し合いの確認です

- バリアフリーを整える。2 階への移動、トイレの利用などに支障がない施設を目指してほしい。
- 高齢者などだけでなく若い人も含めた他世代にとって優しい施設になるという考え方も必要。
- 利用者にとってプライバシーの配慮が行き届くという視点も必要。

<主な意見>

- 車いすの方などのためにバリアフリーが整った施設担っていると良い。財政の課題もあるが、エレベーターを取り付けも検討すべきではないか。
- コストの問題でバリアフリー化ができないとは今の時代では考えられないのではないか。
- 高齢者や弱者の方に寄り添う姿勢も大切ですが、若い方に対して使いやすくすることで広がり方が変わるのでは。
- 再編、集約を考える際には、プライバシーの観点も考慮すべきである。

(7) すべての人が利用しやすい手続きであってほしい。 ←確認ポイント：今までの話し合いの確認です

- 予約や支払いなどの手続きを便利にすることが必要。そのためには、IT 化による利便性追求する一方、それに馴染まない方を大切にするという配慮も必要である。
- 村全体でワンストップの窓口を持つところを目指してほしい。

<主な意見>

- コミュニティセンターの予約のデジタル化など、村全体で施設予約についての利便性を高めてほしい。
- 体育館の利用や予約状況を行かなくてもわかる感じにしてくれたら分かりやすい。
- 今の時代、予約するときにクレジットカードとか何か、あるいは他のやり方で支払う仕組みがあるので、それらに対応することも利便性を高めるためには必要。
- 電子化して便利になる。ただそれになじまない方もいるので、アナログの手続きも残すなど、そういう方への配慮も大切である。
- アプリだけにたよるのはあまり良くないと思う。
- ワンストップの窓口があると良い。

3. 公共施設の機能分類ごとの“ありたい姿”

(1) 命を守るための機能 …コミセン、東海村役場



◎有効活用視点

① 災害などの緊急対応機能は万全であってほしい。←対話ポイント！：追加，新たな視点はありますか？

- 公共施設が命を守るための機能を発揮するためには、災害などの緊急時に対応できる十分な設備などが整っている必要がある。
- そのための手法については、防災機能に特化した施設と日常の機能を重視した施設に分けて考えるなどの具体的な形が考えられるが、公的負担の度合いを考えながら引き続き検討すべき課題である。

<主な意見>

- 全てのコミセンで同じ防災機能を持たせるのではなく、防災の種類で、各コミセンの防災機能を再編成すべきだと思う。(例えば洪水災害対策であれば内陸部のコミセンに防災機能を集約する等)
- 各施設に防災機能があることは魅力的だが、各施設でちゃんと機能させるためには、行政の負担がかなり大きいと思う。
- 避難所という意味では、コミセンのようなところに分散避難するよりも、むしろ大きな学校等の建物にまとまって避難した方が対応し易いのではないか。
- コミセンの防災機能について、現状のまま防災拠点に変えると言っても、難しいのではないか。
- 防災機能に特化したコミュニティセンターと防災機能を持たない従来のコミュニティセンターを分けても良い。防災特化型のコミュニティセンターを、各災害用に更に分類して、必要な資材を揃えても良いのではないか。(例えば原子力災害対策用コミュニティセンター)
- 地域のつながりを作るコミュニティセンター本来の機能も残しておいて、市民の間で何の防災機能があるのか共有されるようになる必要がある。
- 災害時にコミセンで発電ができなかった経験も踏まえて取り組みを行っているが、住民に周知できてない部分もあるので、自治会等の防災訓練などでアナウンスに取り組みたい。
- 地域のつながりに重点を置くコミセンは、自治会連合等に外部委託し、防災機能に重点を置くコミセンは災害(原子力、地震)毎の機能を充実させ直営とすべき。

◎収益性視点

① 特になし ←対話ポイント！：追加，新たな視点はありますか？

<主な意見>

- 特になし。

(2) 安心のための機能…コミセン、総合支援センター「絆」、東海村総合福祉センター「なごみ」



◎有効活用視点

①必要なサービスが必要な人に届く施設であってほしい。←対話ポイント：追加，新たな視点はありますか？

- 公共施設が持つ、介護、福祉、医療や健康などの安心のための機能については、まず、本当に必要な人にサービスが届くという視点を中心に考えるべきである。
- そして、収益化よりも本質的に必要なサービスがしっかり村民に届けられているかという視点で評価すべきであり、利用率などについても単なる数値として判断することはふさわしくない。

<主な意見>

- 公の施設なので、本当に利用が必要な人にサービスが届くようなことがまずは大事であると思う。
- 声を出せない弱者が必要なサービスを受けられなくなるということはないようにしなくてはならない。
- 機能が重要ということと施設が必要ということは同じではない。必要なサービスを提供することが大事。
- 生活サービスとして、社会福祉施設に朝昼晩の食事を低価格で提供する食堂があれば、高齢者は助かる。子ども食堂の機能も一緒にしても良いのではないか。高齢者や子どもに食事を提供する施設は各地で連携して提供することが望まれるが、社会福祉施設が中心的な役割を担うことによって、安心に繋がるのではないか。
- 社会福祉施設には社会福祉協議会が指定管理として入っているが、単純にビジネス展開するのではなく、行政と一体となり、民間のノウハウを活用して必要なサービスを展開することが大事。
- 公の施設、特に福祉施設のサービスは、数字よりも、誰もがサービスを受けられるということが大事。
- 機能を集約して効率を高めることも大事だが、集約するべきではない機能もある。利用者のプライバシーを確保しなくてはならないサービスもあるのではないか。

◎収益性視点

①収益化よりも本来の目的を大切に作る施設であってほしい。←対話ポイント：追加，新たな視点はありますか？

- 安心のための機能確保のためには、収益化よりも施設本来の目的である介護、福祉、医療、健康などのサービスが必要な人に届いているかという指標で判断することが必要である。
- そのためにも社会福祉協議会のような組織とも密接な連携をとることも必要である。

<主な意見>

- 社会福祉施設については、収益化よりも、何のための施設か、本質的に必要なサービスを届けるという視点が重要ではないか。
- 社会福祉施設は、執行費用がいくらで利用率が何%という指標は適切ではなく、機能を充実させていくべき。
- 社協で難しいのであれば、外部(民間)を入れて調査することも検討すべき。

(3) 社会的な機能…コミセン、東海村中央公民館、東海村姉妹都市交流会館東海村村民活動センター



◎有効利用視点

①人と人のつながりの拠点になる施設であってほしい。←対話ポイント：追加，新たな視点はありますか？

- 地域に根ざしたコミュニティを活かす施設という視点が重要である。また，ネット社会の中で，あえて人が顔を合わせるような施設という視点も必要である。
- 既につながりのある地域にとってもそれを助長するような取組も検討する必要がある。

<主な意見>

- 人が集まる機会が少なくなり，そういった時代にあっても，あえて人が顔を合わせるような施設があった方がよい。
- 市民文化系施設について，学校の部活動を行っているが，せっかく公共施設でやっているのであれば，学生と指導者だけではなく，周りの市民との交流があっても良いのではないか。
- 良い施設があるということを，市民で共有して使っていくことで，地域の繋がりができると思う。
- 大人が自治会や地域で活動する姿を子供を連れて行って見せることが大事。地域で大人と関わることで，交流や繋がりが生まれる。
- 現役のうちに，地域のひととの繋がりを場を作っておきたいという希望を持っている。そういった場所があると助かるので，交流があるような施設を残して欲しい。
- 高齢者から言えば，30年以上地域に住んでいるから既に繋がりがあがる。
- コミセンの地域との繋がりの歴史を無視して，収益性や数字だけで仕分けしていくのはよくないが，コミセンがそんなにたくさん必要なのかというコストとの兼ね合いも考慮する必要はある。
- 博物館の前の芝生の広場は，子供たちが集まって遊んだりするのを見てホッとする。
- 地域のつながりに重点を置くコミセンは，自治会連合等に外部委託し，防災機能に重点を置くコミセンは災害(原子力，地震)毎の機能を充実させ直営とすべき。

◎収益性視点

①指定管理者制度の弾力的運用等で魅力を高めてほしい。←対話ポイント：追加，新たな視点はありますか？

- 指定管理者制度の運用を弾力化することで，効率化や新たな発展につなげる視点が必要。
- 競争原理を導入することも要検討。

<主な意見>

- 現在の指定管理者制度が事業の効率化の改善や新たな発展を抑制する結果を招いている可能性がある。
- 指定管理者が，一社独占状態なのは，競争原理が働かないので，コンペティターを探して，競わせるのが妥当。
- 文化センターは今後の改修時期，内容について，給排水。衛生設備更新工事，消防施設更新工事の方が，照明改修よりも優先順としては上ではないでしょうか。

(4) 成長のための機能…コミセン、東海文化センター、スポーツ系、東海村立図書館、東海村歴史と未来の交流館



◎有効活用視点

①自らを高めるための場所を提供できる施設であってほしい。←対話ポイント：追加，新たな視点はありますか？

- 勉学や調査研究，スポーツ技術を向上させるためのドプレイスとしての機能を整えることも大切である。また，村民の活動を支援する拠点として機能させるという視点も重要である。

<主な意見>

- 図書館の目指すところに「快適」というキーワードがあった。単に本を読みにくるかというよりも，そこで快適に勉強したりできるスペースは結構大事だと思う。そういうスペースを増やす検討をしても良いのではないかな。
- 文化系スポーツ施設に関して，子供たちの文化的な活動を支える施設になって欲しい。
- 東海村の部活動は，卓球や吹奏楽が強く，東関東大会でも入賞した。色々な分野で活発に活動していて，大会前に文化センターを借りて練習できるのは有意義だ。子どもの教育に活かせる施設は，増やしていきたい。

②その他（ ） ←対話ポイント：追加，新たな視点はありますか？

- 東海村の文化紹介の拠点機能，類似施設の連携による魅力アップなども検討すべき。また，運営に民間の視点を取り入れるという考え方も必要。

<主な意見>

- 博物館で文化イベントをやったことで，市外から人が来て，情報が拡散したことがあった。東海村の文化を紹介するのは面白い。
- 図書館と博物館などで情報の横の連携ができると，興味をもった人が情報の深掘りができて良いのではないかな。
- 民間の視点を少し入れてみても良いのでは。

◎収益性視点

①その他（ ） ←対話ポイント：追加，新たな視点はありますか？

- 村民が成長するための機能とのバランスととりながら，料金体系の見直し，競争原理による改善を図る必要がある。

<主な意見>

- 料金(施設利用料)について条例改正等も含めて検討し，さらなる利用者増に向けて取り組みを進めるべき。
- 文化センターの運営に関して指定入札団体を複数化すべき。
- 文科系施設について，時代に即した選択と集中が必要なのではないかな。

(5) 自己実現の機能…コミセン、東海文化センター、東海駅コミュニティ施設、東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」



◎有効活用視点

①東海村ならではの活力を高める施設であってほしい。←対話ポイント：追加，新たな視点はありますか？

- 施設の目的を明確にした上で，民間活用などの運用面での手段を考え事が必要である。また，産業支援などについても東海村としての特色を活かすというポリシーを持つべきである。
- 民間活用やビジネス展開の拠点になる施設として検討すべきである。

<主な意見>

- 産業支援には力を入れていると思う。ただ，自治体でやるのであれば，東海村としての特色を出すためのポリシーがないと単なる貸部屋みたいになってしまう。
- 支援という意味では非常に有効な創業支援だと思う。工夫して活用してほしい。
- 産業系施設について，必要だという行政の話もあるが，財政難なのであれば売却するという考え方もあるのではないかな。
- アイヴィルは何を目的にするのかを明確にして，民間も活用しながらどう使うかを考えてはいかがか。
- アイヴィルについては，周辺の民間企業等との連携を考えても良いのでは無いか。
- 東海駅やイオン東海を活用して東海村の認知度アップのための PR 活動をして良いのではないかな。
- アイヴィルは何を目的にするのかを明確にして，民間も活用しながらどう使うかを考えてはどうか。

◎収益性視点

①収益性を考えた機能展開を実現する施設にしてほしい←対話ポイント：追加，新たな視点はありますか？

- 東海村の活力を引き出す機能とのバランスを考えながら，民間ノウハウ活用も取り入れた収益構造を考えていくべきである。

<主な意見>

- 料金(施設利用料)について条例改正等も含めて検討し，さらなる利用者増に向けて取り組みを進めるべき。
- 産業系については，特有の状況もあるが，思い切って売りに出して村の収益にすれば，種々財政難も多少は解決できるという考え方もできる。
- プラザは立地条件が良いので，民間委託の貸ビルとして使うのが経費削減につながるのも必要。
- アイヴィルについて，物販等も利便性が高く実施できるよう条例改正等うまく実施し，改善できると良い。

4.その他施設区分ごとに出された改善提案意見

空白